

地域高齢者と大学の連携による現場に即応する管理栄養士の育成の実績報告  
- 平成 26 年度栄養長寿教室および地域訪問栄養長寿教室の活動とその評価 -

平成 27 年 6 月 8 日

(1) はじめに

食物栄養学科では管理栄養士に必要な対人指導能力の向上を図るため、平成 19 年度より、地域の高齢者を大学に招いて栄養指導と食事提供を行う栄養長寿教室を実施している<sup>1,2)</sup>。平成 25 年度からはこの栄養長寿教室を発展させ、新たに地域訪問栄養長寿教室を始めた<sup>3)</sup>。地域訪問栄養長寿教室は学生が公民館等に赴き、その地域の高齢者に栄養指導等を行うものである。栄養長寿教室および地域訪問栄養長寿教室（以下、特に区別する必要のない場合は、これらを合わせて栄養長寿教室等活動とする）に参加する高齢者は健康状態や健康への取り組み状況もさまざまである。また参加者は毎回異なるため、学生は初めて会う対象者を相手に栄養指導を行うことになる。このように栄養長寿教室等活動では、学生がより実践に近い場面を経験することにより、対人指導能力、コミュニケーション能力、業務遂行能力などの汎用的学習成果を獲得することができる。

栄養長寿教室等活動は正規の授業ではなかったが、学生にとっては重要な学習機会となっており、カリキュラムにおける位置付けを明確にすることが課題であった。そこでまずは平成 26 年度より、栄養長寿教室等活動における学生の学習成果を評価し、その結果を授業科目の成績の一部に反映することとなった。評価を行う際には、後述する本学科で作成した栄養長寿教室等活動のルーブリック（表 3、表 4 を参照）を用い、その学習成果の可視化を試みた。

(2) 授業科目の成績への反映方法

栄養長寿教室は年間 4 回（3 月、6 月、8 月、11 月）、地域訪問栄養長寿教室は年間 2 回（7 月、10 月）開催した。担当したのは主に本学科の 2 年生および 4 年生であり、2 年生は高齢者の栄養マネジメント（身体計測）、4 年生は高齢者の栄養マネジメント（栄養診断・食事診断・栄養指導）を行った。学内で開催した栄養長寿教室では、栄養指導の後に食事を提供しているため、4 年生は給食経営管理（献立・調理・栄養教育）も行った。授業科目の成績への反映については、平成 25 年 7 月 4 日の平成 25 年度第 5 回食物栄養学科 FD 会議において検討され、平成 26 年度より以下のように取り扱うこととなった。

2 年生：総合演習の成績評価に反映する。

- ・ 3 月（1 年次）、6 月、7 月、8 月、10 月、11 月のうち、各学生はいずれかに 2 回参加する。
- ・ 1 回参加につき、最高評価点を 10 点とする。

- ・2回参加した場合の合計最高評価点は20点とする。
- ・総合演習の評価点は上記20点を加えて、合計100点とする。

4年生：健康管理論の成績評価に反映する。

- ・11月（3年次）、3月（3年次）、6月、7月、8月、10月のうち、各学生はいずれかに2回参加する。
- ・1回参加につき、最高評価点を5点とする。
- ・2回参加した場合の合計最高評価点は10点とする。
- ・健康管理論の評価点は上記10点を加えて、合計100点とする。

以上のとおりである。「総合演習」は2年生後期、「健康管理論」は4年生後期の授業科目である。「総合演習」は栄養士免許取得に必須の科目であること、「健康管理論」は卒業必修科目であることを考慮し、上記の配点となった。

### (3) 栄養長寿教室等活動の実施状況（平成25年度後期～平成26年度12月まで）

各回の栄養長寿教室等活動を担当する学年を表にまとめると、表1のようになる。

表1 平成25年度11月から平成26年度3月までの担当学年

	平成25年度		平成26年度					
	11月	3月	6月	7月	8月	10月	11月	3月
	学内*	学内	学内	地域**	学内	学内	地域	学内
H23年度入学生	○	○	○	○	○	○		
H24年度入学生	○						○	○
H25年度入学生		○	○	○	○	○	○	
H26年度入学生								○

\*栄養長寿教室のこと。学内で実施されるため「学内」と記す。

\*\*地域訪問栄養長寿教室のこと。

このうち、本報告の対象となるのは、平成23年度入学生（平成26年度4年生）と平成25年度入学生（平成26年度2年生）である。平成23年度入学生の4年次後期の健康管理論、平成25年度入学生の2年次後期の総合演習から、栄養長寿教室等活動での評価が授業科目の成績に反映される。平成25年度入学生は1年次の平成26年3月から2年次の11月まで、平成23年度入学生は3年次の平成25年11月から4年次の平成26年10月までを担当する。上述した第5回食物栄養学科FD会議の決定では、学生は1人2回参加となっていたが、4年生

については実際には栄養マネジメント 2 回に加え、給食経営管理 1 回を担当しているので、1 人の参加回数は合計 3 回となる。したがって栄養マネジメント 1 回参加の最高評価点は 3 点、給食経営管理 1 回参加の最高評価点は 4 点と扱うこととした。

なお、平成 25 年度後期から、平成 26 年度 12 月までに実施された栄養長寿教室等活動の実施日、実施場所、参加者数は以下の表 2 に示すとおりである。

表 2 栄養長寿教室等活動実施状況（平成 25 年度後期～平成 26 年度 12 月まで）

名称	実施日	場所	参加者数			
			高齢者	H25 年 度入学 生	H23 年 度入学 生	教員
第 25 回栄養長寿教室	平成 25 年 11 月 9 日 (土)	本学	13		20	4
第 26 回栄養長寿教室	平成 26 年 3 月 1 日 (土)	本学	12	13	18	4
第 27 回栄養長寿教室	平成 26 年 6 月 7 日 (土)	本学	12	14	18	4
第 3 回地域訪問栄養長寿 教室	平成 26 年 7 月 19 日 (土)	天城台 集会所	53	14	7	3
第 28 回栄養長寿教室	平成 26 年 8 月 2 日 (土)	本学	13	8	19	4
第 4 回地域訪問栄養長寿 教室	平成 26 年 10 月 18 日 (土)	新田親 和会館	29	15	8	3
第 29 回栄養長寿教室	平成 26 年 11 月 8 日 (土)	本学	13	9		4

各回の栄養長寿教室等活動を実施する前には、担当する学生を集め、数回にわたり指導を行った。また、活動実施後にも担当者が集まり、活動の反省点、今後の改善点を検討した。

#### (4) ルーブリックを用いた評価

学生の学習成果は、学生からの報告書および教員による評価表を基に、平成 24 年度に本学科で作成したルーブリック（表 3、表 4）を用いて行った。

表3 栄養長寿教室のルーブリック

		栄養マネジメント		給食経営管理
		2年(身体計測)	3・4年(食事診断・栄養診断・栄養指導)	3・4年(献立・調理・栄養教育)
レベル	4	④身体計測機器を手順に沿って使い、その結果を説明できる。 ③マニュアルを見て身体計測機器を立ち上げ、使用できる。 ②状況を判断し、高齢者を誘導できる。 ①高齢者に挨拶し、対話ができる。	④身体計測、体成分分析のデータから身体状況を把握し、生活改善を提案できる。 ③食育サツを使用し、その結果の説明と食事改善の提案ができる。 ②チームとして行動できる。 ①高齢者の気持ちを考えて、行動できる。	④給食経営管理の改善案を周囲に向けて関係者に働きかけることができる。 ③給食を活用した栄養教育・情報提供ができる。 ②対象者の栄養管理を目的とした給食の品質管理ができる。 ①利用者のニーズをくみあげた栄養・食事計画ができる。
レベル	3	③マニュアルを見て身体計測機器を立ち上げ、使用できる。 ②状況を判断し、高齢者を誘導できる。 ①高齢者に挨拶し、対話ができる。	③食育サツを使用し、その結果の説明と食事改善の提案ができる。 ②チームとして行動できる。 ①高齢者の気持ちを考えて、行動できる。	③給食を活用した栄養教育・情報提供ができる。 ②対象者の栄養管理を目的とした給食の品質管理ができる。 ①利用者のニーズをくみあげた栄養・食事計画ができる。
レベル	2	②状況を判断し、高齢者を誘導できる。 ①高齢者に挨拶し、対話ができる。	②チームとして行動できる。 ①高齢者の気持ちを考えて、行動できる。	②対象者の栄養管理を目的とした給食の品質管理ができる。 ①利用者のニーズをくみあげた栄養・食事計画ができる。
レベル	1	①高齢者に挨拶し、対話ができる。	①高齢者の気持ちを考えて、行動できる。	①利用者のニーズをくみあげた栄養・食事計画ができる。
達成目標	現場に即応した管理栄養士の養成 2年生(身体計測)・・・①身体計測機器を手順に沿って使える。②高齢者とコミュニケーション(挨拶、言葉遣い、対話)ができる。③状況を判断し高齢者を誘導できる。 3・4年生(食事診断・栄養診断・栄養指導)・・・①身体計測、体成分分析のデータを読み栄養指導ができる。②食育サツを使用して食事改善の指導ができる。③チームワーク、リーダーシップが取れている。④高齢者の立場を考慮して行動ができる。 3・4年生(献立・調理・栄養教育)・・・①対象者に合わせた食事づくりができ、給食を活用した栄養教育・情報提供ができる。②食事提供後に、次回の栄養長寿教室に向けて、統合的な改善案が作成できる。			

表4 地域訪問栄養長寿教室のルーブリック

		栄養マネジメント	
		2年(身体計測)	4年(食事診断・栄養診断・栄養指導)
レベル	4	④身体計測機器を手順に沿って使い、その結果を説明できる。 ③マニュアルを見て身体計測機器を立ち上げ、使用できる。 ②状況を判断し、高齢者を誘導できる。 ①高齢者に挨拶し、対話ができる。	④身体計測、体成分分析のデータから身体状況を把握し、生活改善を提案できる。 ③食育サツを使用し、その結果を説明できる。 ②チームとして行動できる。 ①高齢者の気持ちを考えて、行動できる。
レベル	3	③マニュアルを見て身体計測機器を立ち上げ、使用できる。 ②状況を判断し、高齢者を誘導できる。 ①高齢者に挨拶し、対話ができる。	③食育サツを使用し、その結果を説明できる。 ②チームとして行動できる。 ①高齢者の気持ちを考えて、行動できる。
レベル	2	②状況を判断し、高齢者を誘導できる。 ①高齢者に挨拶し、対話ができる。	②チームとして行動できる。 ①高齢者の気持ちを考えて、行動できる。
レベル	1	①高齢者に挨拶し、対話ができる。	①高齢者の気持ちを考えて、行動できる。
達成目標	現場に即応した管理栄養士の養成 2年生(身体計測)・・・①身体計測機器を手順に沿って使える。②高齢者とコミュニケーション(挨拶、言葉遣い、対話)ができる。③状況を判断し高齢者を誘導できる。 4年生(食事診断・栄養診断・栄養指導)・・・①身体計測、体成分分析のデータを読み栄養指導ができる。②食育サツを使用して食事改善の指導ができる。③チームワーク、リーダーシップが取れている。④高齢者の立場を考慮して行動ができる。		

成績評価に反映する場合の点数の計算は、次のように行った。2年生は実際には結果の説明を担当しなかったため、評価する際には最高評価をレベル3までとした。したがって、2年生はルーブリック尺度においてレベル3は10点、レベル2は7点、レベル1は4点とした。栄養長寿教室等活動に不参加の者は0点とした。学生は1人2回参加するため、2回ともレベル3を取得した場合に最高点20点となる。

次に4年生は栄養マネジメントを担当する2回と、給食経営管理を担当する1回の計3回参加となることから、次のように取り扱うこととした。栄養マネジメント(2回)ではレベル4は3点、レベル3は2点、レベル2は1点、レベル1は0点とした。給食経営管理(1回)ではレベル4は4点、レベル3は3点、レベル2は2点、レベル1は1点とした。いずれの場合も栄養長寿教室等活動に不参加の者は0点とした。栄養マネジメントで2回ともレベル4、給食経営管理でレベル4を取得した場合に最高点10点となる。実際に評価を行った結果は、表5、表6に示した。

表5 平成25年度入学生の成績(得点と人数)

得点	人数
10点	1
20点	38

表6 平成23年度入学生の成績(得点と人数)

栄養マネジメント		給食経営管理		総合評価	
得点	人数	得点	人数	得点	人数
0点	1	0点	1	0点	0
1点	0	1点	0	1点	0
2点	0	2点	1	2点	1
3点	3	3点	7	3点	1
4点	1	4点	22	4点	0
5点	0			5点	0
6点	26			6点	1
				7点	1
				8点	1
				9点	6
				10点	20

2年生は39人中38人(97%)が20点(最高評価点)となった。しかし、平成26年度は

各学生が担当する測定機器を固定したため、すべての測定機器を扱えるようにはなっていない。平成 27 年度は学生がより多くの測定機器を扱えるように、運営上の改善が必要である。20 点に到達しなかった学生は、栄養長寿教室等活動への出席が 1 回のみだったため、点数が 10 点にとどまった。

4 年生の栄養マネジメントについて、31 人中 26 人 (84%) が 6 点 (最高評価点) となった。ルーブリックにおいて最高レベルに到達しなかった学生は 5 人 (16%) であった。4 年生の給食経営管理について、31 人中 22 人 (71%) が 4 点 (最高評価点) となった。最高レベルに到達しなかった学生は 9 人 (29%) であった。これらの学生は改善計画を立てることができていなかった。

#### (5) 今後の課題

平成 27 年度はより多くの学生が最高レベルに到達するよう、自主的に課題を解決できるような学習方法の検討を行い、事前の教育を充実させる。

またルーブリック尺度に関して、2 年生のレベル 4 の内容が実態と合っていないだったので、修正する必要がある。具体的には、現在のルーブリックで「身体計測機器を手順に沿って使い、その結果を説明できる。」となっている部分を、「身体計測機器を手順に沿って使い、その結果を理解できる。」とする。

#### (6) 文献

- 1) 友近健一, 岡本喜久子, 次田隆志, 妹尾良子, 高橋裕司「倉敷市老人クラブ連合会と提携した『有喜・栄養長寿教室』と管理栄養士教育における位置づけ」『岡山学院大学・岡山短期大学紀要』34, 35-39, 2011.
- 2) 次田隆志, 岡本喜久子「倉敷市老人クラブ構成員における健康・栄養調査」『岡山学院大学・岡山短期大学紀要』34, 41-54, 2011.
- 3) 宮崎正博, 岡本喜久子, 妹尾良子, 竹原良記, 高槻悦子「倉敷市老人クラブ連合会と岡山学院大学の連携による現場に即応する管理栄養士の育成 - 平成 25 年度栄養長寿教室および地域訪問栄養長寿教室の活動とその評価 -」『岡山学院大学・岡山短期大学紀』37, 1-14, 2014.